

東海道五十三次 宿場町 石部

石部は、古くから伊勢へ参る街道として多くの人々が行き来した。関ヶ原の戦いの後、徳川家康は大阪への兵を進めやすくするために東海道を整備。「石部宿」には、幕府直轄と膳所藩直轄の二つの本陣が置かれ、全盛期には216軒の商家や32軒の旅館が並び、東海道五十一番目の宿場町として栄えた。石部は京から江戸へ向かう旅人が最初に泊まるのに都合がよかった。それは、草津宿は京を出発して泊まるに早過ぎ、水口宿では遠すぎたからである。



寿泉神社

しゅせん
寿泉神社
本殿は明治以前は十神神社と称した。本殿に向かって左側に石幢がある。石幢は燈籠に似ているが、神仏の前に掛ける幢をかたどったもので幢身には六地藏が彫られている。近江では珍しいものである。

伊勢藩の千本松 (伊勢斎宮御所)

昭和55年(1980)に枯死するまで一本のウツクシマツの巨木がそびえていた。「千本松」と呼ばれ、幾つかの伝説がある。千本松はまた、「御殿松(おほらまつ)」ともいわれ、伊勢斎宮の概所の守護神とされていたと伝えられる小さい塚がある。

五軒茶屋と上道・下道

野洲川の洪水で通行不能となったので、膳所藩主・本多康慶は18町8間(約1.9km)の迂回路を造り(上道)、石部宿から5軒が移転されて茶屋を始めたが、道回りのため利用が少なく、天和2年(1682)には「近道禁止札」が出されたといわれる。明治になって堤防も整備されたので元の道(下道)が本流になったという。

石部宿 田楽茶屋

安藤広重が描いた石部宿「田楽茶屋」をもとに再現された休憩所。東海道を歩く旅人や近所の方のために飲食を提供しています。月曜定休

吉御子神社

吉御子神社(女神様)と対の関係となる男神様とされ、厄除け・安産・交通安全の守護神として信仰されています。本殿(重文)は慶応元年(1865)に京都の上賀茂神社の日本殿を移築したもので、崇徳天皇の創建と伝えられています。

真明寺

境内に松尾芭蕉が「野ざらし芭蕉」の中で石部宿の茶屋風景を詠んだ句碑がある。写生句で芭蕉の自由句は左葉には珍しい。

石部宿 小島本陣跡

数多くの大名や明治天皇なども宿泊した本陣。現在は石碑と説明板が残るのみ。小島本陣は慶安3年(1650)に創建されたが、膳所藩主本多俊次、康将二代に対する小島氏の顕著な奉公により承応元年(1652)に本陣職を許された。本陣は芝居「馬方三吉」と遊野の井の別れ」で知られた「恋女房染分手綱」の舞台。

いしべ宿驛

本陣の跡地に建てられた「この方の街角サロン」。1階は園芸と土間、2階は畳と板間で住民も観光客も誰もが休憩や会合に気軽に利用できるサロン。月曜定休

道の辺広場

昔の面影を色濃く残す石部宿の落ち着いた街並を、いつまでも保存しようという目的で作られたポケットパーク。散歩の途中に立ち寄り休憩したり、周囲の風景をゆっくりと眺められる住民憩いの場となっています。

芝居小屋「常磐館跡」

ミニ京都南座といえる建物で当時、案内でも珍しかった「回り舞台」があった常磐館ですが、大正始めに焼失してしまいました。写真：大正の頃の撮影

吉姫神社

吉御子神社とは対の関係にあり、5月1日の例祭にはそれぞれが当時、案内でも珍しかった「回り舞台」があった常磐館ですが、大正始めに焼失してしまいました。写真は、南北朝時代の作とされる木造狛犬があります。

上葦穂神社

社伝によれば、天智9年(670)四月二十日に社殿を建立しこの地の産土神とあがめ奉って白雉神社から上葦穂神社と名付けられた。旧社号は白雉神社(博智・博打・薄知)という。

八嶋寺遺跡

湖南市は、平安時代中期から室町時代にかけた「糟物荘」と呼ばれる荘園領地として、京都にある教王護国寺(東寺)や醍醐家領等に属していました。現存する事例としては、糟物荘のすぐ南にある八嶋寺の地蔵堂にある野口に「糟物荘」の銘が刻まれています。

地蔵堂

上葦穂神社境内にあり、湖南市指定文化財の木造地藏立像を安置している。

石造不動明王

鎌倉時代の作で右手に剣を持ち、大地に足をふんばっている姿は往時の信仰の強さを伝える。像の彫刻として立派なもので、特に竜(がん)とう仏像を収納する厨子まで石で作られている点に特徴がある。

ウツクシマツ 自生地

国の天然記念物に指定されている「ウツクシマツ」は根元からいくつにも分れた幹が伸び、葉先が平らになった傘型の珍しい松。群生する山は美松山と呼ばれ、その一帯は美しい景観を呈している。

由良谷川隧道

明治19(1886)年3月25日に完成。街道の通行をよくするために作られたアーチ型の隧道。外国人技師の設計により、県費で大沙田川一由良谷川一室津川の順に作られ、東海道のあった三つの隧道の一つ。

石柱

東海道から飯道神社への参道を示す石柱で、「式内 飯道神社」の文字が刻まれている。

音音寺跡

- 石造不動明王
- 木造地藏菩薩半伽像
- 針文五郎顕彰碑

旧東海道	寺	石碑
国道	神社	トイレ
主要地方道	霊岩神社	信号
一般県道	高札場跡	レストラン
JR	本陣跡	居酒屋・スタック
	一里塚跡	レンタサイクル

高札場

役・禁令などを一般民衆に徹底させるため、板(繪・杉・梅)を行い、街頭高く掲げた。各所の要地に設けられ、地方でも十字街頭などに高札場があり、「札の辻」の名称が生まれた。高札による法令通知のしかたは、明治3年(1870)までだった。

問屋場(人馬御継所)

宿場の問屋は、人馬・伝馬・荷馬を集めて宿の業務(継立事務)を行い、その場所を問屋と呼び、いつもにぎわっていた。各所の要地に設けられ、地方でも十字街頭などに高札場があり、「札の辻」の名称が生まれた。高札による法令通知のしかたは、明治3年(1870)までだった。